

臺灣俚諺集覽



AC

民國三（一九一四）年五月初版發行
民國八十（一九九一）年十月複刻版發行

定價新台幣八〇〇元正

臺灣俚諺集覽

編者

臺灣總督

發行人

魏德文

出版者

南天書局有限公司

登記證字號：局版台業字一四三六號

發行所

南天書局有限公司

中華民國

台北市羅斯福路3段283巷14弄14號

電話(TEL)：(〇二)二三六〇一九〇

電傳(FAX)：(〇二)二三六三三八三四

郵政劃撥：〇一〇八〇五三一八號

印刷者

國順印刷有限公司

板橋市中正路216巷2弄13號
電話(TEL)：(〇二)九六七七二二六

ISBN 957-638-082-0

臺灣俚諺集覽序

夫レ俚諺ハ風俗習慣ノ結晶ニシテ民族思想ノ小照ナリ其ノ言ヤ簡ニ其ノ意ヤ深シ若シ夫レ百年ノ精鍊ヲ經タルモノニ至リテハ片言無量ノ妙趣ヲ藏シ隻語無限ノ諷刺ヲ寓ス以テ社會風習ノ根抵ヲ窺フヘク以テ地方民情ノ極微ヲ味フヘシ事ニ本島各般ノ業ニ從フ者豈臺灣俚諺ノ研究ヲ度

外視シテ可ナランヤ

曩ニ學務部ニ於テ編纂中ノ臺灣俚諺集覽
稿成リ將ニ梓ニ上サントス茲ニ一言ヲ述
ヘテ序トナス

大正三年二月九日

臺灣總督府民政長官 內 田 嘉 吉

凡例

一本書は本島人中泉州語漳州語を使用するものゝ間に行はるゝ俚諺の類、凡そ四千三百餘を蒐集して、之に解釋を施せるものなり。

一本書は嚴密なる意義に於ける俚諺のみに止まらず、譬喩的の熟語、故事、俗傳、地口、隱語、異名の類にして、日常人口に膾炙するものをも採録せり。

一本書に用ひたる發音は主として厦門音を標準とせり、蓋し厦門音は泉州音漳州音の中間に位し、二者の特質を兼有し、且つ五十音字を用ひて比較的容易に其の音を表示するを得る便あるを以てなり。

一本書に用ひたる特別の符號假名、及び符號に對する發音は、大要左の如し。

一、符號假名

サ セ ソ テ ツ

「サ」は「ツア」の促りたる音即ち^サの音

セは「ツエ」の促りたる音即ち^セの音

ツは「ツオ」の促りたる音即ち「オ」の音
 チは「テイ」の促りたる音即ち「イ」の音
 ヅは「トウ」の促りたる音即ち「ウ」の音

二、出氣音符號

カ・キ・ク・ケ・コ　　タ・チ・ツ・テ・ト・
 バ・ビ・ブ・ベ・ボ　　サ・シ・ソ・セ・ソ・

出氣音は「カハア」「タハア」「バハア」「サハア」等の如く發音す

三、八聲符號

上平　上聲　上去　上入　下平　下去　下入

() 1 1 1 1 1 1 (常音)

6 6 9 9 9 9 9 (鼻音)

上平の音調は高調にして平直なり此の調に限り別に符號を附せず。
 上聲の音調は始め高調より強く急に低下し、音尾微弱なり。
 上去の音調は低調にして長く、音尾微弱なり

上入の音調は中調より稍、低下し、音尾短くして急に息止す。

下平の音調は始め低調にして、漸次に上昇す。

下去の音調は中調にして長く平直なり。

下入の音調は高調にして短く、音尾急に息止す、但し津州音に在りては、中調にして短く音尾急に息止す。

鼻音は語詞の全部、又は韻音を鼻にかけて發音するものにして、常音の入聲符號に圓圈を施して之を表はせり、但し其の音調に關しては常音と異なることなし。

一 俚諺排列の順序は、先づ其の句中に含有せる主要なる語詞、又は意義を本として之を二十篇百三十九部に分類し、而して其の同一部内に於ては、左の順序に従つて之を排列せり。

一 發音假名の頭字、第二字、第三字等、大体五十音の順序によれり。

一 所謂濁音半濁音、サモツヂ、及び出氣音の符號を帶びたるものは、各此に相當する假名にして其の符號なきものゝ次に出せり。

一、同一の假名にして入聲の異なるものは、上平、上聲、上去、上入等、入聲の順序に排列し、而して鼻音の符號を有するものは、之に相當する常音の次に出せり。

一、本文の解釋は、大体先づ原文の大意を譯し、尙は必要なるものにつきては、一層詳細なる解説を施し、或は間、其の出處を掲げたるものもあり、又本國の俚諺にして之に相當したるものある場合に於ては、成るべく之を對照せしめたり。

一、本書は卷末に於て五十音引の索引を設け、以て俚諺搜索の便に供したり。

一、本書の編纂は編修書記平澤平七主として、其の任に當り、本島人蔡啓華、潘濟堂、陳清輝之を補助し、編修官小川尚義之を校閲せり。

大正三年三月

臺灣總督府

臺灣俚諺集覽目次

第一篇 天文地理

天地	日月星辰	晝夜	雷	風雲雨雪	四時季節	年月日時	山岳河海	水	火	國土地理
一頁	二	六	三	元	三	三	四	四	四	五

第二篇 神佛

道路	神佛	鬼神	咒詛	運命	死	生	因果因果	禍福吉凶	盛衰離合
六	五	七	八	四	六	九	九	一〇	一〇

第三篇 命運

第四篇 國家

國家 一〇五

君主 一二三

官 一二四

軍 一二三

第五篇 人倫

祖先親族 一二六

父母親子小兒 一二六

男女 一二四

結婚 一二五

夫婦 一二五

兄弟姊妹 一二六

師弟主徒 一二三

第六篇 道德

善惡正邪 一六五

忠孝 一七一

忍耐 一七三

勤儉 一七五

禮義 一七六

恩愛 一七八

驕傲 一八〇

吝嗇貪慾 一八二

雜 一八四

第七篇 人

人 一八六

人物 一八八

君子小人 一九〇

主客 一九二

婢僕	1100
乞食	1101
賭博	1102
盜賊	1103
自他	1104
人生	1105
老少長幼	1106
人情	1107
人心	1108
性質	1109
賢愚美醜	1110
貧富貴賤	1111
長短巧拙	1112

第八篇 身體

身體	1113
頭	1114
面	1115
耳目	1116
鼻口	1117
手足	1118
心腹	1119
陰部	1120
臀部	1121
毛髮其他	1122
不具	1123
病氣藥石	1124
糞便	1125

第九篇 衣食住及器用

服飾	三〇六	葬具	三〇七
飲食	三三三	雜具	三〇九
飯粥	三三一	金錢財貨	三一九
肉類	三六六	船橋	三九三
副食物	三六六	第十篇 職業	
餅麵類	三三一		
菓子類	三三三		
酒煙草等	三三五		
飢飽	三六一		
住居	三三三		
家具食器類	三三〇		
農工商具	三六六	職人勞働者	四〇四
武器	三六一	第十一篇 學事	
樂器	三五五		
		學問	四一六

及第	學者	文字	詩歌	道經	雞	鶩	鳥	犬	貓
----	----	----	----	----	---	---	---	---	---

第十二篇 言語

第十三篇 禽類

第十四篇 獸類

四〇	四三	四四	四六	四元	四〇	四七	四九	四六	四六
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

豚	牛	馬	猴	鼠	虎	龍	狐	蛇	蛙	蜈蚣	蟻	蚤虱
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	----

第十五篇 蟲類

龍麒麟	狐其他	蛇	蛙	蜈蚣蜘蛛	蟻	蚤虱
-----	-----	---	---	------	---	----

四二	四六	四八	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

蜂蟬蜻蛉

五三

蠅蚊螢

五五

蟲類雜

五六

第十六篇 魚介類

魚

五九

貝類

五九

蝦蟹

五七

龜

五〇

第十七篇 草木

樹木

五三

竹甘蔗

五九

草

五一

花

五四

五穀

五〇

果實

五五

蔬菜

五七

第十八篇 金石

五〇

第十九篇 事物

五六

第二十篇 雜

名數

五三

雜

六一

臺灣俚諺集覽補遺

六〇三

目次終

臺灣俚諺集覽

第一篇 天文地理

一 天地

紅天ベニテン 赤日頭アカヒカウ

天赤く日赤き好天氣○麗かな好い天氣に傾けて
ゐては天道様に濟まぬなせ。

由天推排ユテンツイハイ

天の按排に由る○世間の事皆天の定めによるもの、心配するに及ばず。

有天ユテン 無日頭ムヒカウ

天有つて日無し○天有つて日無き道理なし即ち
不道理なること。

有天理ユテンリ 即有地理キヨウヂリ

天の理あれば必ず地の理あり○自分が親に對して孝行をすれば子も亦自分に對して孝行をする

など。

脚踏人的地 頭戴人的天

脚は人の地を踏み、頭は人の天を戴く○土地も家も皆人のものにて自分の物は一つも無し。

脚踏恁的地 頭戴恁的天

脚は汝の地を踏み、頭は汝の天を戴く○前言と同じ、唯人と汝の差のみ、何も彼も皆汝のもの。

擗頭 看天

頭を擗げて天を見る○反省して天の道理に従ふ。

杞人 憂天

杞人天を憂ふ○杞憂、取り越し苦労、列子に曰ふ

杞國有人憂天崩墜身無所寄廢寢食者云々。

驚天 動地

驚天動地○朱子語錄に曰く聖人做事須要驚天動地即漢七修類稿に曰く御史初至則曰驚天動地過幾月則曰昏天黑地去時則曰冥天寂地。(通俗編)

叫天天不應 叫地地不聽

天に叫べど天應へず、地に叫べど地聽かず○言うて聽く人なく訴へて取り上る者なし、倚る所なく救を求むる所なく非常に窮したる事。

差在天淵

天と淵の差わり○月と鑑、詩經の大雅旱麓に焉飛戾天魚躍于淵。